



## 都市生活

スタッフ\*小松 高志

猛暑と多忙に心身ともに疲れているあなた、秋の夜長に読書ならぬ映画鑑賞などしてリフレッシュしてみませんか。そこで、2本の映画をお勧めします。(たいがいのレンタルショップで借りられます。)どちらも都市における人生や家族のあり方を考えさせられる佳作です。(もうこの時点でドドッと気が重くなる?ますます疲れる?まあそう言わず少しお付き合いください。)

ひとつめは「東京物語」です。これは昭和28年に初上映された故・小津安二郎監督の代表作であり、映画史上に残る不朽の名作と呼ばれています。広島は尾道に住む老境にさしかかった夫婦が、東京で暮らす子どもたちを訪れるために上京をします。(当時は新幹線などない時代で、文字通りの長旅です。)しかし、子どもたちはそれぞれの仕事や人生を抱えており、なかなか老いた両親の面倒をみることが出来ません。結局、唯一親身になって東京見物につきあってくれたのは血のつながりの無い戦死した次男の嫁でした。それでも2人は元気で暮らしている子どもたちを見て安心し

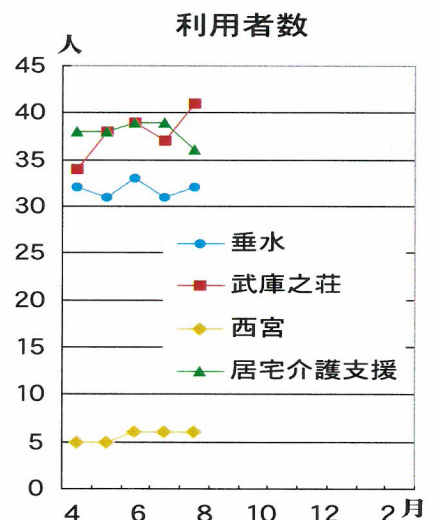
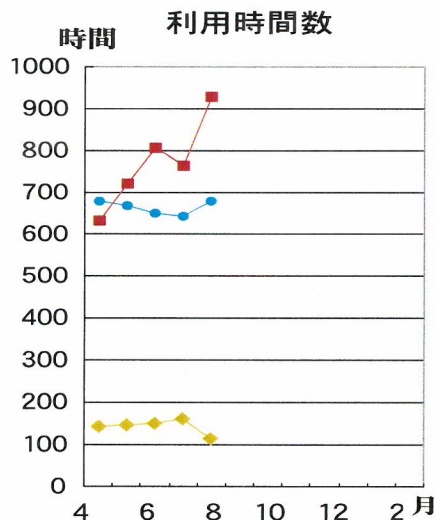
て東京を去るのですが…。もうひとつは、是枝裕和監督の「誰も知らない」です。これは昨年発表された映画で、実際に東京で起きた児童放置事件がモチーフになっています。出生届けも出されていない四人の子どもたちを、ある日、母親は新しい恋人と暮らす為に小額の現金を残して置き去りにします。ガスや水道が止められる困窮の中、残された子どもたちは十二歳の長男の奮闘で“誰も知らない”生活を続けますが…。

時代背景の違うこの2本の映画に共通しているのは舞台が都会、つまり都市生活の悲喜こもごもですが、究極のテーマは「家族」とは何かということにあります。とりわけ「東京物語」は、戦後急速に進んだ核家族化と都会志向(脱田舎)の行く末を暗示的に描いており、その意味でテーマは普遍です。今から50年以上前に作られた作品でありながら古さを感じないのはそのせいかもしれません。2本とも心身のリフレッシュに役立たないかもしれませんが、決して無駄な時間にはならない事を保障します。是非ともご覧ください。

## 2005年度☆介護保険事業報告

- ★あ・し・す・と (垂水)
- ★あしすと武庫之荘 (尼崎)
- ★あしすと西宮 (西宮)

●現在、3つの事業所を拠点に都市生活組合員が中心となってヘルパー派遣事業を行っています。  
●武庫之荘では居宅介護支援事業(ケアプラン)、支援費事業も行っていません。





# 山古志訪問記

## 第1回 ヤマのくらしと復興 ……青木勝さん（山古志地域復興推進室長）に聞く

8月22、23日の2日間、関西学院大学の災害復興制度研究所が募ったツアーに参加して、中越地震で壊滅的打撃を受けて全村避難が続く旧山古志村（現長岡市）の現地を訪問しました。これからシリーズで山古志のレポートをお届けします。（池田啓一）



旧山古志村はいわゆる中山間地に位置しています。中越地震の後、今年の3月に山古志は新潟県第2の都市である長岡市に吸収合併されました。私たち一行は、8月23日に長岡市役所を訪問し、旧山古志村役場職員で長岡市復興推進室主幹の青木勝さんからヤマの暮らしの復興について

たいへん興味深いお話をうかがうことができました。その一部を私のメモを元に再現してみます。なお、青木さんは9月から山古志地域復興推進室長に就任されています。

山古志はいま、二つの荒波にもまれています。震災からの復興と長岡市への合併です。さらにこうした時期に、前山古志村長が「郵政解散」後の衆院選に出馬



土石流で通行不能の道路

を表明しました。「ああ、全村帰還を訴えた村長は東京へ行ってしまうのか」…住民の間に「取り残され感」が漂っているのは事実です。

さて、肝心の復興ですが、地盤調査などに時間がかかってしまって、重機が本格的に大量投入されるのはこの秋からになります。国交省が直轄して行う事業はスピーディーに進みますが、県や市の事



土砂ダムに埋もれたままの集落 2005/8/22

業はスポンサーである国におうかがいを立てねばならず、どうしてもワントempo遅れてしまいます。全村に出されていた避難指示は現在、一時解除されていますが、ライフラインはまだ全然ダメな状態です。学校も医療機関も商店も役場もありません。盆明けからやっと重機が入って損壊した住宅の取り壊しが始まります。瓦礫の搬出はさらにその後になります。

「次の雪」が問題です。おそらく今度の雪の時期も無人の村になってしまうでしょう。除雪車が村に入れるかどうかポイントになります。そのためにも道路確保が急がれています。

2006年9月に7割の住民が帰還する予定です。あとの3割は態度を決めていません。その3割の方々のために仮設住宅を山古志に移転することも検討しています。しかし、これには前例がありませんので、どうなるかわかりません。

中山間地でくらしということの意味をもう一度問い直したいと思います。このままでは日本の中山間地から人がいなくなってしまう。実際、山古志の復興に1,000億円も投下するくらいなら、一世帯に2,000～3,000万円渡して移転してもらったほうが安上がりだという議論すらあります。平地に住む人びとにもこのことを一緒に考えてもらう必要があります。（つづく）

## ～インフォメーション～

### ●講演会

☆成年後見人制度について 10月6日（木）14時～16時 会場：西宮市市民交流センター2階 B会議室

講師：永瀬典子氏（神戸学院大学総合リハビリテーション学部講師）

NPO法人

参加費：NPO会員 300円 一般 500円

募集人数：30名

主催 都市生活コミュニティセンター

### ●イベント

☆市民の祭り-今年もすぴりっつ

10月16日（日）10時～16時

会場：西宮市六湛寺公園（西宮市役所東隣）

（都市生活コミュニティセンターも出店します。）

西宮市と市民啓発活動実行委員会の共同主催で、NPO・市民活動グループによる市民向け啓発イベント

主催：西宮市・市民啓発活動実行委員会